

船
橋
市

農委だより

第85号 平成25年1月1日発行

(年2回発行)

発行 船橋市農業委員会

編集 農委だより編集委員会

〒273-8501 船橋市湊町2丁目10番25号

TEL 047(436)2742~5

URL <http://www.city.funabashi.chiba.jp> (船橋市役所)

メールアドレス nogyo@city.funabashi.chiba.jp

賀正



市内在住の 高尾 泉さん(98歳) 作

新春のご挨拶

船橋市農業委員会

会長 田中行雄



新年明けましておめでとうございます。皆様方には、新春をお健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、政局は目まぐるしく変化し、農業施策も落ち着きがなく、高齢化の進行、耕作放棄地の増加、TPP等課題・問題を抱えたまま、先行きが不透明に思われます。

しかし、そのような中で、都市における農地の重要性への認識は着実に高まっていると感じます。

都市計画制度の見直しを検討するため国土交通省に設置された「都市計画制度小委員会」の24年9月の中間とりまとめでは、消費地に近い食料生産地として、災害時の防災空間として、身近な農業体験・交流の場として、緑地空間として都市住民の生活の質の向上に寄与する農地の保全の必要性を認め、「都市と緑・農の共生」を目指すべき都市像の一つとしています。この意見が具体的な形となり、都市

農業の振興につながることを期待します。

私たちもまた、耕作放棄地対策や、違反転用パトロールなど、農地を守る活動とともに、農水産祭「都市農業PR」や、学童農園事業を通して、地域の方々、子供たちに農業への理解を深めていただくよう努めています。これからも、船橋の農業の振興のために、新鮮な食料の安定的供給や自然環境の保全等、都市農業の役割や重要性を訴え、「農」のあるまちづくりの推進に努力して参ります。

今後とも、皆様方の更なるご支援とご協力を賜りたくお願い申し上げますとともに、皆様方のご健勝を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。



謹んで新年のご挨拶を申し上げます

農業委員一同

田中	岡庭	田久保	三橋	金子	川野	飯島	橋本	仲村	興松	玉井	斉藤	藤城	神山	岩井	濱田	濱田	大沢	土橋	小池	石井	奈良	石神	金子	木村	齋藤	
行雄	一美	好晴	一誠	雄一	豊雄	雄一	俊弘	勲	實	誠	義樹	孝茂	友子	駿一郎	実久	之博	正一	俊郎	五十八	豊治	昭	嘉伸	正伸	教子		
(印内)	(三咲)	(西船)	(東町)	(前塚町)	(西船)	(金堀町)	(飯山満町)	(高根町)	(中野木)	(小野田町)	(海神)	(高根町)	(豊富町)	(丸山)	(上山町)	(夏見)	(三山)	(東中山)	(馬込町)	(吉和釜町)	(東船橋)	(神保町)	(坪井町)			

選挙人名簿登録申請書は
1月10日(木)までに提出を

農業委員会委員選挙人名簿は、各農家からの申請により、毎年1月1日現在で作成します。選挙人名簿に登録できる人は、次の要件を満たしている人です。

- ① 船橋市内に住所のある人
- ② 平成25年3月31日現在で満20歳以上の人
- ③ 10アール以上の農地を耕作している農業経営主、およびその人と同居の親族・配偶者で年間60日以上農業に従事している人

※選挙人名簿に登録されないと農業委員の選挙権及び被選挙権は認められません。右の要件を満たしている方で、申請書が届いていない場合はご連絡下さい。

なお、8月に実施した「所有地及び耕作地に関する申告書」が未提出の方は、併せて提出して下さい。

提出・問合せは、

農業委員会事務局

047(436)2745

(議席順)

平成25年度建議について

10月9日、田中行雄農業委員会会長から藤代孝七船橋市長へ「平成25年度船橋市農業施策に関する建議書」を提出いたしました。
建議書は農業者の要望が反映されるよう、農業委員や各農業団体、農業モニター制度等を通じて得られた意見を取りまとめて作成され、総会で決定されたものです。

一 東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故被害への対応

①生産物の放射性物質検査の実施と結果の公表を継続すること。また、地域をより細かく分け、多くの品目についての検査の実施に努めること。

②放射性物質漏出に伴う諸問題について引き続き注視し、地域農業への影響が出ないよう最善の対応をすること。

二「農」のあるまちづくり

農業者と市民との相互理解を深めるために「農」のあるまちづくりを推進すること。

三 担い手対策

①担い手育成・確保及び支援措置の周知、技術の確立・農業施設等への助成、農業政策・諸税制等に関する説明会の開催等の施策を講ずること。

②新規就農者の確保、労働力の減少を補完するための農業研修講座の継続、受講修了者による援農システムの構築を図ること。

③農業センターがより多くの農業者に活用されるよう努め、農業者同士の情報交換の場の設置等について検討すること。

④婚活事業を継続すること。

四 農地対策

①耕作放棄地解消対策として、景観緑

肥作物の導入、土地再生のための大型機械の補助、事業に協力するグループ等の支援・育成を図ること。

②生産緑地を農業経営基盤強化促進事業の対象地区とするよう関係機関へ働きかけること。また、積極的に追加指定を行うよう指定基準を見直すこと。

五 農業生産振興対策

①原油・肥料・飼料等のコスト上昇に対する負担軽減措置等について検討すること。T P P等国の施策が地域産業に与える影響について見極め、生産コストに見合った価格補償制度を実施するよう関係機関に働きかけること。

②作物残渣・剪定枝・家畜排泄物等を堆肥化し地域に還元する事業を検討すること。

③廃棄物処理法施行令では「農業等を営むためにやむを得ないもの」は焼却禁止の例外であるが、市では環境保全条例により一律に屋外燃焼行為を禁止している。この見解について再考願う。

④県の補助事業の適用要件について都市農業の特性に合わせて柔軟に対応できるように県に働きかけること。

⑤市の「施設園芸補助事業」について、市内農業者が市外に所有するハウスも対象とすること。また、被覆材だけでなくカーテン等も対象とすること。

六 地域振興対策

(一) 都市農業対策

①「防災協力農地」について周知し、都市における農地の必要性への理解促進に努めること。

②農作業について地域住民の理解を得られるよう、農業の必要性・重要性について啓発・広報等を実施すること。宅地開発事業者に対し、農業が継続できる環境を維持し、住宅購入者へ十分な説明を行うよう指導すること。

③農産物の盗難、ビニールハウスの毀損、ごみの投棄、ペット等の排泄物の



放置・放し飼い等の被害への対策として、啓発、広報等を実施すること。

④農作物に対する人工光の影響を考慮した照明器具等の設置方法・点灯時間について、事業者及び関係施設等に指導すること。

(二) 消費拡大・食育対策

①安全・安心で品質の高い船橋産農産

物のブランド化事業を推進し、特産品の創設に努力している経営体の育成や農商工連携し、加工品の開発・ブランド化の取り組みを推進すること。

②農作物直売所・朝市等の開設・運営を推進すること。

③船橋産農産物への安全性及び信頼の確保のため、迅速かつ安価に結果の出せる残留農薬分析施設の設置を検討すること。

④農業体験の機会を広く提供する施策の実施、特に子どもたちの農業への理解促進に寄与する学童農園について教育事業として積極的に推進すること。

⑤学校給食に船橋産農産物を使用するため、学校と農家・農協が直接取引できない現状について、食材納入方法を検討すること。

(三) 鳥獣被害防止対策

野生鳥獣による農産物被害の実態調査、捕獲等の対策を検討すること。

七 税制対策・その他

①農地の固定資産税の課税にあたっては、農業者の負担にならないような課税に努めること。

②以下の項目につき関係機関に働きかけられたい。

・相続税・贈与税の納税猶予の特例制度の堅持。

・相続税納税猶予の20年営農継続による免除制度の復活。

・農業経営上必要な施設を納税猶予の特例の対象とすること。

③農地転用許可後に用途変更するケースを防ぐため関係各課に協力願う。

八 農業委員会の体制の強化

農地法等改正に伴い増大している農業委員会の体制の強化を図ること。

第45回農水産祭

「船橋市農業の応援者になつて！」

昨年11月10日(土) J R 船橋駅
おまつり広場において、恒例となつた「都市農業のPR」を目的としたイベントが開催されました。

当日は11月とは思えないような
素晴らしい天気にも恵まれました。早
朝より農業委員・事務局、そしてお
手伝いの方々によって、野菜等の会
場への搬入、そして会場の設営等、
汗ばむほどの中での作業となりました。

会場は大きく分けて三つのテン
ト構成となりました。その中で最も
広いテントが野菜の即売エリアで、
今年は32品目の野菜類を並べるこ
とができました。

二つ目のテントは梨・米・もち・
花等を即売するテントです。

三つ目のテントが、船橋の農業を
考えてもらうことを目的とした抽選
付アンケートのコーナー(アンケー
トに答えることで抽選に参加でき
る)・船橋市内で直売を行っている



農家の紹介・自家菜園でのお困り相
談等のコーナーが設置されました。



準備を終え、開催に伴い松戸徹
副市長・田中行雄農業委員会会長・
金子一雄農政小委員会委員長より、
会場に集まっているお客様への挨拶
がありました。松戸副市長より「船
橋市は美味しい野菜がたくさん取れ
ます。みなさん船橋市の農業の応援
者になってください」との言葉、田中
会長からは「ここに集まった野菜は
私たちが愛情を込めた、言わば手塩
に掛けて作った野菜だと言えるで
しょう。皆さん、この野菜を食べて
ニッコリしてください」、金子小委
員長が「本日は天候に恵まれました。
都市農業PRにおいていたただいた
みなさん、船橋の農業へのより一層
の理解をお願いいたします」と結び、
午前11時に即売が開始されました。
購入に際しては、整理券を手にし
た方から順次購入いただく方法を
取りました。

野菜コーナーでは、野菜の美味
しい食べ方やメニューの相談、保存



方法等の会話が行われていました。
船橋の農業の紹介やアンケート
等のコーナーでは「このようなイベ
ントをもっと開いてくれたらいいの
に」「あまり価格が高くなるのは困
るけど、地場のものを食べたいよ
ね」「船橋ってこんないろいろな
野菜が作られているんだね」「私の
家の近くにも直売している農家がな
いかしら」などの話し声とともにア
ンケートに答えていました。「私、
くじ運が悪いのよね」と言いながら
抽選に臨んだお客様が「ねえ、卵が
もらえたの、今日はいいい日だわ」と
喜んでいました。300人分用意
したアンケートは早々に終わしまし
た。

天候に恵まれたものの、秋の行
楽時期と重なってしまったこともあ
り、来場者の伸びはいまひとつでし
た。それでも午後3時には全ての
品を完売し、農水産祭「都市農業
PR」の幕を閉じました。

このイベントを通じて、船橋市の
農業をもっともっと積極的に伝えて
ゆく必要を感じました。

農水産祭アンケート結果

あなたは、農水産祭「都市農業
PR」の開催をどこで知りましたか。
(複数回答可)

・口コミ 16名(5.3%)

・市の広報紙

・農協の機関誌 134名(44.4%)

・インターネット 4名(1.3%)

・現地で 151名(50.0%)

・その他 5名(1.7%)

あなたは、船橋の農産物に関しど
のような情報を得たいですか。
(複数回答可)

・販売場所や入手方法 135名(44.7%)

・種類やその生産地 69名(22.8%)

・農産物の安全対策や安全性 153名(50.7%)

・その他 6名(2.0%)

当即売会では生産者表示を実施
しておりますが、生産者表示につ
いてどのようにお考えですか。
(複数回答可)

・地区・生産者氏名が分かれば安
心 201名(66.6%)

・農薬などの生産履歴まで知れた
いい 88名(29.1%)

・顔写真があったほうがよい 51名(16.9%)

・表示があれば安心だが内容はあ
まり見ない 42名(13.9%)

・あってもなくても関係ない 13名(4.3%)

・その他1名 0.3%

ご協力ありがとうございました。

農業委員紹介

二期目を迎えて



小池 正一
(二和東)

新年あけましておめでとうござい
ます。二和・金杉地区の推薦を頂き、
農業委員として二期目を迎えました。
農業委員の職務として、毎月開か
れる総会への出席、総会に掛けられる
案件の現地調査ならびに申請者からの
事情聴取を行っています。

他に農地の調査として、農地利用
調査・農地パトロールがあります。そ
れぞれ適正に農地を管理しているか、
農地が違法に転用されていないかを確
認しています。

農業委員としてこのような職務を
行う中で、船橋市の農業の現状を再認
識させられる場面も多々ありました。
調査の際、皆様の農地等へお邪魔
させて頂き、該当地の農家の方、また、
隣接農地の方にお話を伺う事もあるか
と思います。なかなか不慣れで要領の
悪さが目立つ私ですが、皆様の協力を
頂き、農業委員としての職務に当たら
せて頂きたいと思ひます。

この「農委だより」が皆様の手元
に届くころには、恐らく人参等の播種

時期であると思ひます。天候に恵まれ
ることを願うとともに、農機事故等を
招かないようご自愛ください。今後と
もよろしく願ひいたします。

これからの農業委員活動



土橋 博之
(三山)

農業委員として三期目となりまし
た。今までの二期六年の経験に基づ
き、いっそう農家の皆様のために努力して
まいりたいと考えております。

都市農業を取り巻く環境は年々悪
化しております。特に東日本大震災以
降、市場における農産品の風評被害に
よる価格の低迷、それに伴う減収。販
売品目の放射能汚染が無いことを証明
するための検査を市場や消費者に提示
する等出荷に注意が必要となっており
ます。

また、農地の隣接地での住宅建築、
経営者の高齢化・就農者の減少による
耕作放棄地が増加しております。

この様な状況の中で、市への放射
能検査の実施要望や耕作放棄地の解消
のため、モデル事業による農地の再生
を農業委員として積極的に推進して参
りたいと考えております。

今後船橋農業の発展のため微力
ですが努力していく所存ですので、よ
ろしく願ひいたします。

農業委員になって



濱田 実
(上山町)

私は法典地区(上山町・藤原)の
皆様の推薦を受けて農業委員とさせて頂
きました。

現在二年目を迎えましたが、この
一年は農地の調査や審査・審議など、
分からないことばかりで、日々勉強の
毎日でありました。しかしながら先輩
委員や市職員の皆様に助けて頂きなが
ら、少しずつ農業委員の職務に就いて
いる次第です。

現在、耕作放棄地の担当をしてい
ますが、船橋市の北部、南部、西部、
東部地区を見てみると、耕作放棄地の
様子がまったく違うと感じました。農
家一軒一軒の事情や回りの環境によっ
て農業ができない事情があり、農業を
経営することが大変だと思ひました。
少しでも農家の皆様のお役に立て
るように頑張りたいと思ひます。どう
ぞよろしく願ひいたします。

農地や農業経営等について
の相談、意見など、お気軽
にお近くの農業委員や事務
局までどうぞ！

船橋市援農クラブ

結成される

農家の農作業を手伝う農業ボ
ランティア団体「船橋市援農ク
ラブ」が平成24年2月29日に結
成されました。農家の助っ人を
養成する船橋市の農業体験講座
を修了した一期生12人で、4月
から人手不足の農家の支援を始
めています。

市内農家は、戸数、耕地面積
とも減少していることに加え、
高齢化問題も抱えています。12
人は二年半の講座を修了した主
婦や元サラリーマン。農業セン
ターの技術指導員が「基礎編」
として種まき、肥料などの土作
りを指導、その後「実践編」と
して、薬物野菜や根菜類の栽培
を自主的に計画してもらい、薬
剤散布のための動力噴霧機や、
畑に畝などを作る小型管理機の
操作を学びました。農業センタ
ーや農水産課が仲介し、クラブの
メンバーができる範囲で無償援
助します。まだまだ人数が少な
いため農家の要望に答えられて
いませんが、農水産課は「船橋
市の農業を持
続させるため
には、ボラン
ティアの継続
的な協力が必
要。今後も農
業体験講座を
実施して支援
者を育成し
ていきたい」
と話していま
す。



農業委員・農業モニター 合同視察

11月13日農業委員・農業モニター合同視察を行いました。農業委員16名と農業モニター15名、そして事務局3名の総勢34名の参加で、好天に恵まれ絶好の視察日となりました。道路状況も良く予定通り目的地に着きました。

「山武郡市農業協同組合本所」

初めはJA山武郡市本所内の会議室での視察でした。こちらではJA女性部の農業機械作業への取り組みについて説明がありました。農業従事者減少の中、女性の農業機械作業が不可欠な状況となり、農業機械の女性向け取扱い講習を要望する声が上がったことが取り組みへのきっかけとなったことでした。JA機械センターが講師を担当し、身近な刈払機から始め、今ではトラクターの安全取扱講習まで今年三回程行ったそうです。講習内容は、機械の仕組みを理解して安全意識を持つってもらう（見様見真似作業の予防）・機械の実技体験指導等とのことでした。機械センター



山武郡市農業協同組合

では年三回、全員対象の安全講習を実施しているそうです。その中での更なる女性向け講習の重要性を強く感じた次第です。女性向け講習の効果としては、女性だけでなく疑問質問等何でも話し合え、コミュニケーションの場となる、機械作業は実は楽で女性が力仕事を担っていた等の感想もありました。また、この後、同JAの機械センターも見学させていただきました。



機械センター

「山武市役所」

次に山武市役所を訪問、会議室での視察になりました。冒頭、山武市農業委員会会長の挨拶、今年全面作付まで復興出来たとの事でした。次いで、市農商工・観光課長が説明役となり、まず観光地マップで山武市のPRから始まり、次に大震災時の山武市内への津波襲来映像が流されました。東北地方の津波映像はTV等で幾度も見ましたが、九十九里沿岸にも想像をはるかに超えた津波襲来があった事、特に木戸川を遡上し、田畑に氾濫する様などは衝撃を受けました。田畑は海水の浸水と大量のゴミの山と化したそうです。被災面積422ha・被災者651名に上ったとの事です。そして、ゴミの集積と処理や田畑の塩分除去等、復興には

途方もない努力と精神力が伺い知れました。



山武市役所

「被災農家 河野氏宅と耕作水田（復興圃場）」

最後に木戸川の氾濫で塩害を被った河野氏の作業場と水田を視察しました。河野氏は50haの水田を耕作する大規模農業経営者で家族4人が主に作業しているそうです。

視察前、市役所までお越しいただき河野氏本人から被害と復興の概要説明がありました。震災発生後、津波が河川を遡上し氾濫、河野氏の耕作田も海水の浸水、大量のゴミ・車が流入、その処理に胴長靴を身に付け8人掛かりで一日半費やしたそうです。水田は除塩の為、13回もの代掻きをしたものの効果は薄く、約半分の田は作付出来ない状況のため、残りの田へ作付し、更に苗の補植を6月5、7日に実施し、80%収穫できたそうです。その後も復興努力を続け、今年は全面作付出来たとの事でした。

河野氏の説明を終え、氏の案内で自宅作業場へ移動しての視察を行いました。作業場には船橋市では見られない大型農業機械が置かれ、作業工程ごとの置き場等もその規模の大きさに驚き

の連続でした。しかし建物や置場は簡素で合理的な作りになっており、農機もご自身による細かな工夫が施され、合理化努力にも敬服しました。更に薬剤散布用機械を実際に運転され、アームの作動等の実演をしていただきました。河野氏は剣道を嗜んでおり、その腕前は七段、さらに作業場の一面に本格的な剣道場を造られており、視察団一行もビックリでした。仕事と嗜好（気持の切り替え）が同じ建物内で出来る、何と合理的な事かと思いました。

その後、河野氏の案内で水田（復興圃場）を視察しました。バスから現地に移り立つと約500m先に氾濫した木戸川の堤が見え、津波はバスの所まで押し寄せたそうです。山武市の会議室で見た映像を思い出し、災害のすごさを肌で感じました。

以上今回の視察は終日好天に恵まれ、どの視察先も農業従事者に密接な場所です。本当に有意義な視察になりました。受け入れ先で説明や案内をしていただいた皆様、特に自宅設備まで案内いただいた河野様、心から有難うございました。余談ですが、田んぼの狭い十字路で大型バスの切返し、プロのすご技も見ごたえありました。



山武市農家 河野氏宅

学童農園報告

◆行田西小学校

本年度も学童農園の取り組みに御配慮いただき、土作りや畝作り、苗植え、そして収穫に至るまで大変お世話になりました。誠にありがとうございました。

子ども達は収穫の日を心待ちにしておりました。子ども達にとって学童農園のさつま芋は、普段見聞きするものとは違い、自然の面白さや不思議さを実感するものであったようです。以下、子どもの感想を紹介いたします。

「十月二十四日、学校でさつま芋掘りに行きました。最初の一つ目は普通の大きさの芋で、簡単に掘り出すことができました。だけど二つ目はなかなか掘れなくて、横の土を崩してみたらかなりの人の所まで続いていた。『ちよっと掘らせて』



と言って掘ってみたら、まだ地下深くまで続いていた。そして、やっと掘り出すことができて、うれしかったです。本当に大きくてびっくりしました。」

貴重な体験をさせていただきました。来年度も是非よろしく願いいたします。

行田西小学校教頭 小宮 健

◆前原小学校

泥団子で遊んでいた世代には考えられないことかもしれません、軍手をしても土に触れない子がいる時代です。手ずから植えた苗からサツマイモが穫れ、摘んで蒔いた種から落花生が実る様子を目の当たりにするという体験は、自然の豊かさや命の尊さを実感する何よりの経験となっているはず。

本校はここ数年毎年児童数が増加し、教室の数も足りないほどの規模になってきました。気がつけばそここの空き地に家が建ち、畑がマンションに様変わりしている状況です。そうした環境に暮らす子供たちにとって、この学童農園での体験は教科書の厚さとは比べようのない学習になっていると思います。

この豊かな学習を支えてくださっている農業委員や農業士、農水産課の皆様や、長年畑を提供してくださっている湯浅様、そして、本校の保護者OBとして、子供たちを我が子のように御指導くださっている

天野晃様には、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。皆様の思いに報いるためにも、心豊かな、たくましい子供たちに育てていきたいと思っています。

前原小学校教頭 島崎 喜明



農業者年金でゆとりある老後設計を

- ①国民年金第1号被保険者で、年間60日以上農業に従事する60歳未満の人は誰でも加入できます。
- ②自分の年金原資を自分で積み立てる、積立方式の確定拠出型年金です。加入者や受給者の数に左右されません。
- ③保険料は月額2万円から6万7,000円までの間で1,000円単位で自由に選択でき、また、いつでも見直すことができます。
- ④80歳までの保証が付いた終身年金です。
- ⑤保険料は全額が社会保険料控除の対象になり、年金は公的年金等控除の対象となります。
- ⑥認定農業者や青色申告者等に対しては、国から保険料の補助（2割～5割）があります。

※詳しくはJAまたは農業委員会事務局まで

農地情報

農地の売渡・貸付希望についてお知らせいたします。詳細につきましては農業委員会事務局までお問い合わせください。また、ここに掲載した以外にも情報がありますので、農地を買いたい・借りたい希望のある方はお問い合わせください。（農地として利用する場合に限ります。）
※農地の買受け・借受けには要件があります。

貸したい			売りたい		
町名	地目	面積	町名	地目	面積
豊富町	畑	58a	大穴北	畑	61a
二和西	畑	18a	豊富町	畑	30a
夏見	畑	10a	金堀町	田	16a
東町	田	30a	二和西	畑	11a

売買・貸借の希望は随時受け付けておりますので、ご相談ください。

農産物直売所

「ふなっこ畑」
出荷者大募集

平成23年10月にオープンして一年が経ちました。

地産地消の拠点として、安心・安全な農畜水産物や加工品等を提供する農協直営の農産物直売所です。

農産物直売所「ふなっこ畑」への出荷は、出荷者資格を満たしていればどなたでも可能となっております。「ふなっこ畑」では継続的に出荷希望者を募集しています。



主な条件は次の通りとなります。

(出荷資格)

- ① J A ちば東葛及び、J A いちかわの正組合員またはその家族
- ② J A ちば東葛及び、J A いちかわの准組合員で当店が認めたもの
- ③ J A ちば東葛及び、J A いちかわの正・准組合員で構成するグループ・団体で当店が認めたもの
- ④ その他当店がとくに認めたもの

(出荷できる主な商品)

自らが生産した農畜水産物、製造した加工食品、製作した民芸品もしくは自ら採取した自生の山野草・林産物菌茸類等に限ります。他から買い取り、譲り受け、もしくは仕入れた商品を出荷することは出来ません。

(販売委託手数料)

農産物……………販売価格の15%
加工食品・民芸品……………販売価格の20%

集荷した農産物……………販売価格の20%
集荷した加工食品・民芸品……………販売価格の25%

(会員登録料)

(登録時のみ)
2,000円

(年会費)

(4月1日～3月31日)
1,000円

詳細については

農産物直売所「ふなっこ畑」

(Tel 047-439-3061 小寺) までお問い合わせ下さい。



● 編集後記 ●

「いらっしやいませー、産地直送の枝豆にトマト、トウモロコシのご試食はいかがですかー、お試し下さいー」頭の中では言えるのだが言葉になつて出てこない。何回やってもまともな口上ができず、その言葉も途切れ途切れ。客は横目でチラッと見るだけ。言葉を噛み、情けなさだけが込み上げてくる。近くの柱に鏡があり、自分が映っているのが見えた。なんと情けない姿か。

そのように私が考えている時、大きな声が響き渡った。「いらっしやいませー。朝取れの枝豆にトウモロコシ、トマトはいかがですか。お客様、ご試食下さいませ。今日は生産者自ら販売しております。お買い求め下さいませ」スーパのベテラン女性店員だ。彼女が私の隣で声を出してくれている。するとすぐに客が寄ってきた。女性店員がすかさず「お客様食べてみて」と、試食品を差し出す。「美味しいですよ、朝取れですよ。お一ついかがですか」と、朝取れですよ。美味しかったわ」と、客が答える。それを見ていた他の客が寄ってきた。私が遠慮がちに「食べて下さい」と試食品を出すと、すかさず女性店員が「美味しいですよ、この人が作つたんですよ」と、話しかける。「そうなの、一つ頂くわ」と、客。そして私が小さな声で「ありがとうございました」その後、数名に購入して頂き、店員さんが「頑張つて」の言葉とともに自分の売り場に帰っていった。

また一人だ。声は出せず、客は寄らない。どれ程の客が自分の前を通り過ぎただろう。売れない時間だけが過ぎていった。そんな時、先程の女性店員が「いらっしやいませ」と私の後ろで声を出してくれた。そして「お昼過ぎているけど休みは取れないの？」と、話し掛けてくれる。「こんなに売れ残っているのに昼休みなんか取れないですよ」と、私。その後、僅かな時間だったがその店員が客を集めてくれた。そして「私、そろそろ

昼休みが終わりなので、自分の売り場に行くネ、頑張つて」と、戻っていった。そしてまた客足が引いた。店内の客はパラパラで、声を掛けようという掛けがない。時間の経過が遅く感じる。柱の鏡に映る自分の顔が情けないという文字に見えた。

夕方になり客足が戻ってきたが、売上が芳しくない。仕事じまいの女性店員が買い物ついでに寄ってくれた。「この青果よりお宅の方が美味しいよ」と、買ってくれ、客にも「これ美味しいですよ」と、声を掛けてくれた。

それにしても開店から何時間が経過したのか。商品の残りも少なくなり「売れ残つてもいいか」と考えた。しかし、店員さんの「頑張つて」の音が頭を過ぎり、気を取り戻すことができた。声を出し、客を呼び込むが、残り一つがなかなか売れない。

それから三十分も過ぎた頃だろうか。一人の奥さんが「あつた。一つしかないの？美味しいかつたから、また来ちゃつた」「これが最後なんです」と、一つ手渡すと「有難う」と、言つてレジの方に歩いていった。

「本日完売です」と、声を出すと「御苦勞様」と、店員さんの声。時計の針は七時を指している。何と長い一日だったか。

帰路、車を運転しながら今日一日を振り返つた。昼食も取らず、店内で立ち続け、あの程度しか売れないのか。試食して美味しいと言いながら買わない客、高いと言つて買わない客。売上金額の少なさに情けなくなり、こんなことをしていい良いのかと思つた。その一方で「頑張つて」「御苦勞様」「あつた。また来ちゃつた」等の声。複雑な思いだ。

* * *

私はそれから何度もスーパの売り場に立ち「いらっしやいませ」「ご試食いかがですか」「産地直送ですよ」などの声は出せるようになりました。